



キャンパス / 大阪府枚方市
 学生数 / 1,382人
 学部 / 歯、医療保健
 大学院 / 歯学、医療保健学

CASE STUDY

評価・表彰制度で“教員力”を高め 教育の質向上を図る

大阪歯科大学

大阪歯科大学は目標とする「八つの力(八策)」*1の一つ「教員力の向上」をめざし、人事考課制度を見直した。内部質保証の実質化に欠かせない教員の意欲向上策を聞く。



法人事務局大学企画部IR室 室長

坂下 和子

さかしたかずこ ●民間企業にて大学の学生募集支援事業に携わった後、地方公務員に転職し、情報管理部門で市の基幹システム構築、セキュリティ管理等を担当。2018年に大阪歯科大学入職。2021年8月より現職。

相対評価から絶対評価へ 教員のナレッジを可視化

本学は明治の創設以来、実に110年にわたって、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を養成してきました。医療人を輩出することは、すなわち国家試験合格を意味します。医療人へと「育てる」ことに責任をもつことこそが、教員力の成果だと考えています。教育への飽くなき追求心、たゆまぬ情熱は、変革を恐れず教員改善活動に邁進する、「博愛公益」を實踐する本学教員の原動力です。以前は「教育」「研究」「臨床」「学内・社会」活動の4領域の分野で実績評価を行っていました。相対評価の側面が強く、医療人育成への意欲が高い教員が多いにもかかわらず、動機形成に至らない制度であることは否めませんでした。そこで、教員の活動を可視化し、

評価に結びつけて教育改善を促したいと考えました。

新しい評価制度では、役割でグループに分け、職位でグレードを設定。最初にグループ・グレードに応じた4領域の期待値をポイントで提示し、年度末にその達成率を見る絶対評価に変更。教員の納得度を高めると同時に、4領域のどこに力を入れるべきか、各教員がミッションを理解し、教学マネジメント活動を推進しやすい制度設計をめざしました。

「特定の領域に長けている人も評価してほしい」という管理職クラスの教員の意見を取り入れ、「卓越領域評価」も導入しています。大学が力を入れているSDGsやSociety5.0などの取り組みを指標として取り入れ、若手教員の育成と施策の推進につなげています。

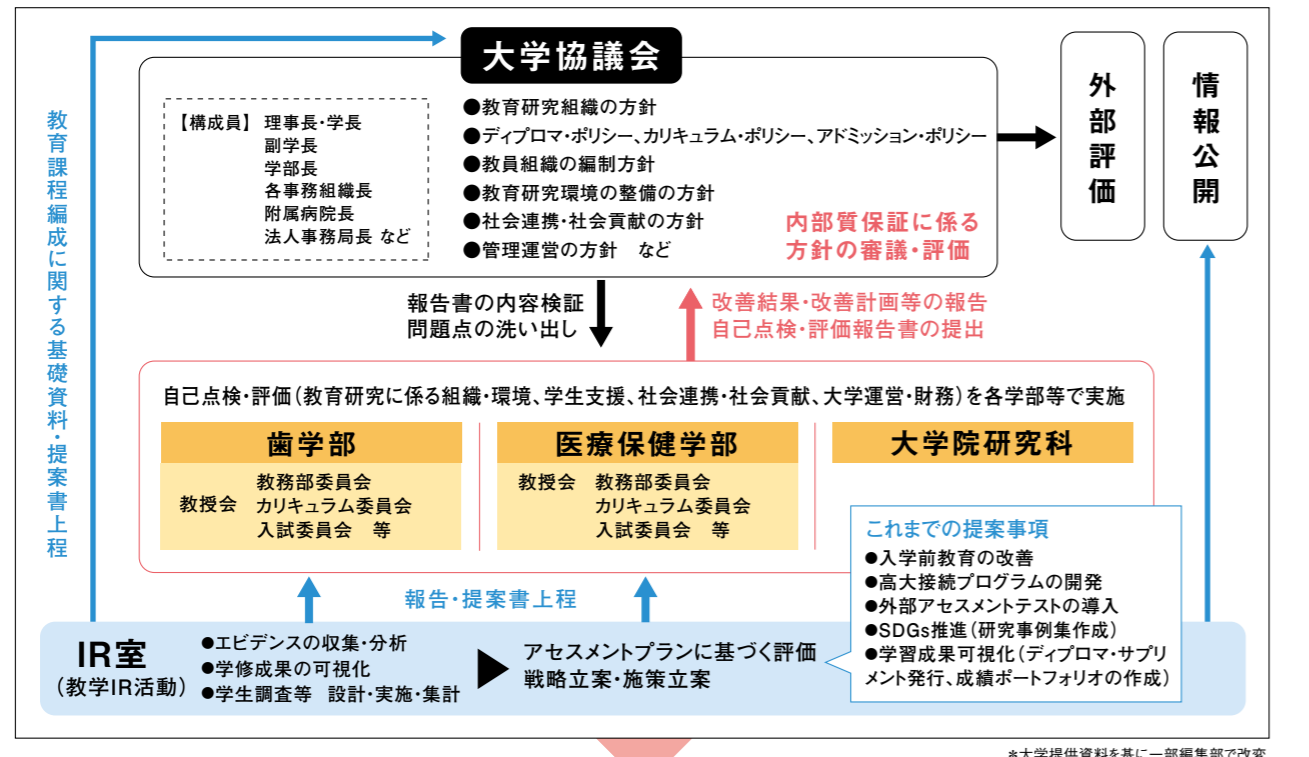
教育活動で顕著な成果を上げた教員を表彰する「グッド・ティーチャー賞」も変更しました。卓越領域評価の結果と教育改善ルーブリックの評価、学生の投票で決まるこの賞を目標に、教育に一層力を入れる教員も増えています。これらの評価・表彰制度への変更の結果、教員が自らの教育を振り返るティーチングポートフォリオも浸透が進み、主体的なPDC A活動の活発化を感じます。

教員が意欲的に 教育活動を行える工夫

一連の改革は川添理事長・学長が委員長を務める教員評価委員会が推進、IR室は、それをサポートする形で教育・研究業績のエビデンスの収集と、評価指標の策定に関する提案を行っています。教員からの質問・意見には丁寧に対応し、改善すべき点があれば教員評価委員会にフィードバックし、制度改善に反映しています。

制度設計にあたっては、これまでの功績が無駄にならないようにする一方で、大学として推進したい施策を仕組みとして反映。教員が主体的に具体的な行動を起こせるように工夫しました。例えば、教育改善ルーブリックでは「学修者主体の学び」「主体的、対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメントを意識した教学活动」「ICTの活用」の4項目について、3段階のルーブリックを設定し、自己評価を行ってもらいます。これにより教員は大学がめざす教育のあり方をイメージできます。本学は2024年度に看護学部を新設する予定です。今後もIR室として各組織をつなぎ、施策の提案などを通じて、医療系総合大学化をサポートしていきます。

内部質保証の体制図



教員力向上策

- ▶公正かつ教員のモチベーションを上げる評価制度の確立をめざし、IR室で教育・研究活動の状況を調査。教員評価委員会に報告、提案し、評価制度の見直しを図る。
- ▶評価制度の項目に、全学として力を入れるSDGs、高大接続、地域貢献を盛り込み、推進。

注目! 医療系総合大学化に向け 高大接続、地域貢献活動を拡充

大阪歯科大学は、2024年度に「看護学部(仮称)」の開設を計画。これを機に医療系総合大学に向けた第一歩を踏み出そうとしている。現在、SDGsへの取り組みや高大接続の強化、Society5.0に向けた人材育成も医療系総合大学化を前提に積極的に推進している。高大接続に関しては、「医療系進路探究プログラム」を開発した。オープンキャンパス等で提供し、進路の選択肢として医療・福祉の仕事の理解を促進。また、医療・福祉に関連するSDGsの推進について、高校生のアイデアを募集し、優れたものを表彰する「SDGs AWARDS」開催。8組がプレゼンテーション大会に出場し、表彰された。

こうした取り組みを企画・推進するには、教員の協力が欠かせない。探究プログラムに協力した教員には評価制度のポイントを与えるなど、教員がそれぞれの推進活動に参加しやすい環境を整えている。

大歯大教員が監修「医療系進路探究プログラム」



プログラムは「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という総合的な探究の時間のガイドラインに沿ったもの。



カードゲームでは、14種類の医療系国家資格を楽しみながら学ぶ。医療カンファレンスの疑似体験に参加する生徒は真剣そのもの。

「SDGs AWARDS」

高校生は地域医療・福祉をテーマとしたミニ講義を受講した後、課題設定・アイデアを考えてプレゼンテーションを行う。



*1 「募集ブランド力の回復」「学力の向上」「教育力の向上」「人間性涵養力への注力」「教員人材育成力への注力」「学生の国際交流力増強」「大学院力の増強」「研究力の向上」

取材・文 / 本間学